

抵抗性オヒシバ発生花木ほ場における 雑草防除体系の実証（浪江町）

福島県農業総合センター 浜地域農業再生研究センター

事業名 福島県営農再開支援事業

小事業名 営農再開に向けた作付・飼養実証

研究課題名 抵抗性オヒシバ発生ほ場における防除体系の実証

担当者 佐藤優平、小椋智文

I 新技術の解説

1 要旨

花木ほ場の雑草防除で一般的に使われているグリホサートカリウム塩液剤（商品名：ラウンドアップマックスロード）に抵抗性があるオヒシバの発生が問題となっている。そこで、抵抗性オヒシバ発生ほ場における雑草防除体系を検討した。その結果、オヒシバ発生前はグリホサートカリウム塩液剤、オヒシバ発生以降は抵抗性オヒシバの除草効果が確認されているグルホシネートPナトリウム塩液剤（商品名：ザクサ液剤）を散布することで、オヒシバ及びその他の1年生雑草を効果的に除草できた。

- 抵抗性オヒシバは7月に繁茂が確認され、7月と8月にグルホシネートPナトリウム塩液剤を散布することで、抵抗性オヒシバ及び1年生雑草の被度は抑えられた。9月以降も再繁茂は見られなかった（表2、図1）。
- グルホシネートPナトリウム塩液剤とグリホサートカリウム塩液剤を交互に散布する体系も検討したが、グリホサートカリウム塩液剤散布後にオヒシバの残草が多数見られ、除草が必要となった（表1、表2、図1）。

2 期待される効果

- 花木ほ場における除草作業の省力化が期待され、安定生産に寄与する。

3 活用上の留意点

- 除草剤を使用する際には登録内容を確認する。
- 薬剤の液量については、樹木類に対する登録に準じた。使用回数はグルホシネートPナトリウム塩液剤で3回以内（1年生雑草に対して）、グリホサートカリウム塩液剤で4回以内（1年生雑草に対して）（2024年3月現在）である。

II 具体的データ等

表1 試験における除草実績

区名	2023年										除草剤散布回数	除草作業回数									
	4月		5月		6月		7月		8月				9月		10月		11月		12月		
	上	中下	上	中下	上	中下	上	中下	上	中下			上	中下	上	中下	上	中下	上	中下	
グリホシネートPナトリウム塩液剤のみ区 (オヒシバ繁茂後)	△				△	○	○													4回	0回
グリホシネートPナトリウム塩液剤及び グリホサートカリウム塩液剤区(オヒシバ繁茂後)	△				△	○	△	×	○											5回	1回
グリホサートカリウム塩液剤のみ区(対照区)	△				△		△	×	△											4回	1回

○: グリホシネートPナトリウム塩液剤散布
△: グリホサートカリウム塩液剤散布
×: 除草作業

表2 各区のオヒシバの被度 (%)

区名	慣行処理後 (7月11日)	各薬剤処理後 (7月27日)	再繁茂時 (8月18日)	各薬剤処理後 (9月7日)	再繁茂時 (9月28日)	各薬剤処理後 (10月19日)
グリホシネートPナトリウム塩液剤のみ区 (オヒシバ繁茂後)	53	2	27	0	1	1
グリホシネートPナトリウム塩液剤及び グリホサートカリウム塩液剤区(オヒシバ繁茂後)	42	4	32	40	37	7
グリホサートカリウム塩液剤のみ区(対照区)	43	60	70	73	58	50

グリホシネートPナトリウム塩液剤区 (オヒシバ繁茂後処理)



グリホシネートPナトリウム塩液剤及びグリホサートカリウム塩液剤区 (オヒシバ繁茂後)



図1 試験期間中の抵抗性オヒシバの様子 (対照区以外 2023年7月11日~9月7日)

III その他

1 執筆者

佐藤優平

2 実施期間

令和5年度

3 主な参考文献・資料

(1) 令和4年度営農再開実証技術情報「グリホサートカリウム塩液剤で除草できないオヒシバは他の薬剤で除草可能(浪江町)」